

○秋の530運動

11月12日、お昼休みを利用して、約30分と短い時間でしたが、秋の530運動（豊橋市530運動協議会）の一環として、当事務所周辺の清掃活動を行いました。530運動は、1975年に、当時豊橋山岳会会長だった夏目久男さんが始め全国に広がった活動で、当事務所では、趣旨に賛同し、5月と11月の年2回、当事務所周辺の公園や道路沿近の清掃を実施しています。

今回清掃した公園では、空き缶やタバコの吸殻などのゴミが目立ち、回を重ねるごとに何とかできないものかという思いを強くしています。次の世代に緑豊かできれいな地球を残すべく、また、循環型社会の構築を目指し、皆様方も「ゴミのポイ捨てはしない」「落ちているゴミは拾う」ことを心がけて頂ければと思います。

○汐川干潟クリーンアップ大作戦



汐川の河口部付近のアシ原

たゴミもほとんどなくなり、豊かな生物環境を育む三河湾のために少しは役立てたのではと感じました。

○海の再生全国会議

11月26日（名古屋通信会館）、27日（蒲郡市）において、第3回海の再生全国会議が開催されました。現在、東京湾・大阪湾・伊勢湾・広島湾において、「全国海の再生プロジェクト」として関係省庁、自治体、NPO等が連携し“海を再生するための行動計画”を策定し、山・川・海・都市が一体となった取り組みが進められています。

本会議は、海の再生プロジェクトを全国の閉鎖性海域に展開させるため、各湾における活動報告を通じた普及啓発・情報共有・意見交換を目的とするものです。

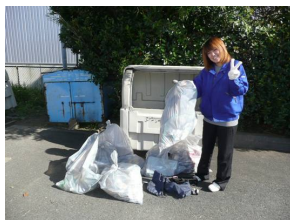


大塚海浜緑地の現地視察

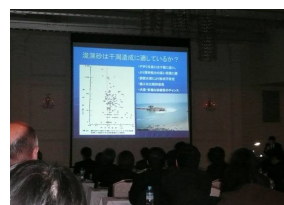
27日は、愛知県水産試験場の干潟造成実験施設や、大塚海浜緑地の現地視察を行いました。今年7月にオープンした大塚海浜緑地は、海辺の憩いの場として、広場と人口海浜が整備されており、子供達への環境学習やイベントなど、海と親しむ活動についての説明がありました。

北海道から九州まで非常に多くの方が出席され、現地視察ではバスの都合上制限が必要になるほどでした。これは、海の再生に対する関心の高さを示したもので、当事務所としても、引き続き三河湾の環境改善に積極的に取り組んで参ります。

★ ホームページで、Mini-WANバックナンバーをご覧いただけます。 <http://www.mikawa.pa.cbr.mlit.go.jp> ★



自分のゴミは持ち帰りましょう！



海の再生全国会議の様子



Mini-WANとは

港や海に関連する新鮮な話題を中心に、地元の皆さんとのつながりを大切にする広報誌です。

■巻頭コラム

■最近のトピックス

- 三谷祭 ○第9回全国凧揚げ大会 in 豊橋
- 日中友好パラリンピックセーリング交流 in 蒲郡
- 第9回全国伝統花火サミット ○第28回豊橋みなとシティマラソン
- JICA研修生三河港視察 ○秋の530運動
- 汐川干潟クリーンアップ大作戦 ○海の再生全国会議

☆CONTENTS☆



☆巻頭コラム☆

三河港湾事務所長 塩田 昌弘

この時期になると思い出すのですが、学生時代に日本を代表する魚市場である東京の築地市場でアルバイトをしたことがあります。

年末1週間だけの短期のアルバイトでしたが、大変おもしろく、3年連続で働きました。いわゆる「場内」と言われる場所で、多くの店が所狭しとならんでいます。自分の店はマグロ問屋でした。まさに「海の男」の職場で、刃渡り50cmはあろうかという重量級の包丁を自在に操る50代の引き締まった体格のおやじさん。身長160cmありませんが大量に荷物が積まれたリアカー（ちなみに自分は持ち上げるのがやっとな）を軽々と運んでいくそのお兄さん。当時、アメリカンフットボールで人並み以上に体を鍛えていたつもりでしたが、全くの脱帽でした。

お酒の強さも半端ではなく、最終日（12月30日午前11時頃）に打ち上げをするのですが、日本酒を水のごとく飲み干すペースに全くついていけませんでした。



港で水揚げされるマグロ

1週間のうち、何回かはアルバイト代に加え、マグロもおみやげでもらいました。一番上等な部分（一般には流通していないとのこと）をもらったこともありましたが、まさに霜降り肉。家に持ち帰ったところ「何これ？」という母親の言葉。そう、マグロに見えなかったのです。未だにあれ以上のマグロは食べたことがありません。

早朝から多くのお客さんで賑わう築地市場。移転予定と聞いていますが、あの雰囲気は残って欲しいと感じています。

「海とみなとの相談窓口」全国共通フリーダイヤル



おーいに よくなれ みなと
0120-497-370

受付時間※/9:00~12:00と13:00~17:00(土・日・祝祭日を除く)

※一部の地域を除きます。



国土交通省中部地方整備局

三河港湾事務所

〒441-8075 愛知県豊橋市神野ふ頭町1番地1
TEL(0532)32-3251 FAX(0532)32-5049

衣浦港事務所

〒475-0831 愛知県半田市11号地2番地
TEL(0569)21-2311 FAX(0569)21-2312

WEB <http://www.mikawa.pa.cbr.mlit.go.jp>

E-mail info-mikawa@pa.cbr.mlit.go.jp

●全国どこからでも、この電話番号で最寄りの『海とみなとの相談窓口』につながります。

○三谷祭

１０月２５日、２６日、蒲都市三谷町にて三谷祭が行われました。
三谷祭は山車（やま）と呼ばれる大きな車を大勢の男性が力強く引き回しながら八剱神社と若宮神社の間を練り歩く、日本でも珍しい祭りです。



海中渡御

祭りの最大の見せ場は、２日目の日曜日に行われた海中渡御（かいちゅうとぎょ）。上区剣山、西区恵比寿、北区三蓋傘、中区花山と、いずれも豪華絢爛な４台の山車が三河湾の海中に入っていき、そのまま３００メートルほど進んでいく迫力のある光景を見ることができました。

１０月下旬の冷たい海の中に飛び込み、大きなかけ声と共に山車を曳く三谷っ子の勇壮な姿に、多くの観客から拍手が起こっていました。



大きなかけ声で気合い十分

○第９回全国凧揚げ大会 in 豊橋



連凧揚げの様子

１０月２５日、２６日、第９回全国凧揚げ大会 in 豊橋（平成２０年度心護杯日本の凧の会秋季愛知大会）が、三河港神野地区の豊橋総合スポーツ公園で開催されました。本大会には、２７都道府県から約５００名が参加され、北は北海道から、南は沖縄県の石垣島まで、全国津々浦々の方が豊橋に集合しました（なんとオーストラリアからの参加者もいたそうです）。

２５日は自由凧揚げ、２６日は子ども連凧揚げ大会、全国の伝統凧＆創作凧揚げ大会、凧のアトラクション等が行われました。大会メインの２６日は、小雨模様でしたが凧もほどよくあり、１５、５８４枚という連凧のギネス記録を持つ豊橋市の五並（いなみ）中学校が連凧を披露するなど、何千もの凧が大空高く舞い踊り、非常に爽快感な気分でした。良い機会なので、今度のお正月には、久しぶりに自分で凧を揚げてみようと思います。



ユニークな創作凧

○日中友好パラリンピックセーリング交流 in 蒲郡

１１月１日、２日、３日の３日間、蒲都市などの主催により、日中友好パラリンピックセーリング交流 in 蒲郡が開催されました。中国からは先日行われた北京パラリンピックに出場した障害者セーリング選手３名が招待され、日本の障害者セーリング選手達と合同で練習やレースなどを行いました。蒲都市の竹島埠頭には、日本で唯一のバリアフリーポンツーン「マンボウ」が設置されていて、ここを拠点に平成１９年から日本と中国の選手達が交流を重ね振興を深めています。



「マンボウ」から乗船

１日には本交流に先立ち、観光庁水嶋智観光資源課長から「観光庁の設立と観光立国の推進」、港湾局宮本卓次郎振興課長から「港の賑わいづくりとマリンスポーツ」と題した記念講演が行われました。

水嶋課長からは「人口が減りつつある今日において、今後の国の財政を支えるため、国内や国外からの人の動きの活性化が重要」、宮本課長からは「港の賑わいを創出するには、船などの水際や水面の利用者を増やすことが重要」と説明がありました。当事務所も、港を核とした観光、地域づくりに協力して参ります。



宮本課長の講演

○第９回全国伝統花火サミット

１１月２日、大塚海浜緑地、ラグーナ蒲郡（共に蒲都市）にて、第９回全国伝統花火サミット in 蒲郡が行われました。

本サミットは、ラグーナ蒲郡でのサミットと大塚海浜緑地での伝統花火実演の２部構成で、サミットの部では参加団体の紹介や意見交換、及び



目の前でみる迫力に大拍手

「蒲都市の手筒花火の伝承」と題した講演、伝統花火実演の部では蒲郡の８団体による手筒花火の披露や全国１０団体の伝統花火（指定民族文化財）の実演が行われました。伝統花火の多くは仕掛け花火で、花火師の姿も間近で見ることができ、普段見慣れている打ち上げ花火とは違った迫力が楽しめ、観客から大きな拍手が湧き起こりました。



手筒花火披露

○第２８回豊橋みなとシティマラソン



１０キロの部のトップ集団

１１月９日、三河港神野地区の豊橋総合スポーツ公園を発着点とする第２８回豊橋みなとシティマラソンが行われました。朝から小雨が降り、気温も１０、９℃（９：３０現在）とスタート前に準備運動をしてもなかなか体が温まらないくらい寒く、コンディションには恵まれませんでした。市内外から１、４３９名ものランナー達が集まりました。

当事務所からは、１０キロ部門に１名、５キロ部門に２名参加しました。５キロ部門に参加する私の目標は２つ。完走と、同部門に参加している同僚に負けない事です。号砲とともに一斉にスタートしました。序盤から中盤にかけては、足取りも軽く、海を見て景色を楽しみながら走っていました。ところが、日頃の運動不足のためか、折り返し地点から、同僚に大きく引き離され、景色を楽しむ余裕さえなくなりました。しかし終盤、同僚を抜き逆転しました。そしてゴール。２つの目標達成です。（同僚は腹痛で泣きそうだったそうです。）

寒さに負けにくいくらいの熱いレースが繰り広げられ、沿道の応援者からは熱い声援を送っていただき、大いに盛り上がった大会となりました。

○ＪＩＣＡ研修生三河港視察

開発途上国への技術協力の支援事業を行っているＪＩＣＡ（（独）国際協力機構）では、毎年各国の港湾関係職員を対象に研修を実施しています。

１１月１４日、「港湾運営セミナー」研修の一環として、各国からの研修生１０名が三河港の視察を行いました。

本研修は、約２ヶ月間に渡り、日本の港湾の整備、維持管理等に関する理解を深めていただき、自国の港湾施策等に役立てる事を目的として全国各地で行われているとのことでした。

当日は、三河港が一望できるポートインフォメーションセンター「カモメリア」で、三河港の港湾管理



神野地区に並ぶ輸入車

理者である愛知県三河港務所安藤所長から「港湾経営・管理」についての説明、（社）東三河地域研究センター金子常務理事より「国際自動車コンプレックス」に関する講演が行われました。その後、フォルクスワーゲングループジャパン本社において、日本での港を活用した経営戦略、三河港を利用した場合のメリットなどのご説明をいただき、自動車取扱量が世界有数である三河港の特徴的な港湾整備や運営などを知っていただくことができました。



「カモメリア」から三河港を眺める